

国連人道問題調整事務所 (OCHA)

チェルノブイリ
今も続く惨事

CHERNOBYL
A Continuing Catastrophe



国際連合

“災害や緊急時において人間的苦悩や資財の破壊にさらされる人々のニーズを満たすために、国際社会、とりわけ国連システム内のそれらの総力を、首尾一貫してタイムリーに結集・調整する。これには、脆弱性を減少させること、根本的原因の解決を促進すること、そして救援から復興・開発へのスムーズな移行を促進することを含む”

(国連人道問題調整事務所の使命に関する声明)

カバー写真：提供 Earthbase/連絡機関

国連人道問題調整事務所 (OCHA)

チェルノブイリ 今も続く惨事

国際連合

ニューヨークおよびジュネーヴ、2000

記

本書で採用した名称、資料の提示は、いかなる国、領土、街、区域の法的地位、あるいはその当局に関する、あるいはその国境、境界に関する、国連事務局のいかなる意見の表明をも意味するものではありません。

本稿に示された見解は著者のものであり、必ずしも国連事務局の見解を反映するものではありません。

序 文

“チェルノブイリ”という言葉は、私たちすべてが記憶から消してしまいたいと思っている言葉である。この言葉を聞いて思い出すのは 1986 年 4 月に起きた原子炉の爆発であり、それはまるでパンドラの箱を開けてしまったときのように人々の心の中の目に見えない敵と名状しがたい不安を表出させた出来事であったが、その後、おそらく安全に処理されて過去のことのできたと私たちのほとんどが思ってしまう出来事でもある。

今もなお、この悲劇を忘れてはならない理由が二つあり、二つとも避けて通ることのできない理由である。

第一の理由は、もし私たちがチェルノブイリを忘れるならば、将来、このような技術的かつ環境的災害のリスクをより増加させてしまうということである。そう、この種のエラーを起こしてしまうと取り返しがつかないが、その再発を防ぐことはできる。

第二の理由は、700 万人以上の人たちがそれを忘れるという贅沢ができなくて、今もなお、14 年前に起きたことの結果として、日々苦しんでいるということである。実際、チェルノブイリの遺産は将来も私たちにつきまとい、そしてこのあと幾世代にもわたって私たちの子孫から離れないのである。

この小冊子は、この惨事が健康、経済、環境、心理、社会に及ぼした影響、そして地域のコミュニティによってなされているリハビリテーションにおける英雄的だが絶望的な努力について述べている。被害者を回復させたり、生命を維持させたりする手段がなくて、ときには自分を役に立たないと感じてしまうような憂鬱な状況を描き出している。

1997 年に国連はチェルノブイリに関する人道的なプログラムを開始した。不幸なことに、このプログラムの資金は必要な金額を大幅に下回る金額にまで低下した。本来は 60 のプロジェクトがリストにあげられていたのにわずか 9 つにまで削減せざるを得なかった。チェルノブイリに対する国際協力をもとめる国連アピールを通じて寄せられた資金の用途として絶対的に優先されるものだけを選択した結果である。

これら 9 つのプロジェクトは、もしも実現すれば、多くの人々の生活をまったく違ったものにするだろう。実際にそれらはチェルノブイリの被害者自身に対してだけでなく、世界中の未来の世代が、確実にその試練から学ぶことができ、利益を得ることができるようにするために、国際社会がなすべき最小のものであると断言してもかまわないだろう。私は各国政府と研究施設 — 政府機関と非政府機関 — にたいしてこれらのプロジェクトに真剣かつ緊急に考慮を払うよう訴える。

私はまた、国際社会が全体として、人生を破壊されたり乱されたりしている人々を助けるという人道的な義務感を心に抱いて核の事故に対する対応を再考するよう訴える。また将来の惨事を防ぐために万全を期すことが必要であると訴える。チェルノブイリのケースでは、被害者はベラルーシ、ウクライナ、そしてロシア連邦の三か国に暮らしている：その正確な数は決してわからないだろう。しかし、300万人の子ども達が治療を必要としており、そして早ければ2016年には、300万人全員が深刻な医学的状況に至ってしまうであろう。実際、もっとも傷つきやすい被害者は、原子炉が爆発した時には幼かった子ども達であり、あるいはまだ生まれていなかった赤ん坊である。彼らの成人期——今まさにそこに達しようとしている——は、彼らの子ども時代がそうであったように、おそらくその瞬間によって損なわれたのであろう。多くが早すぎる死を迎えるだろう。私たちは、彼らが生きている間も死を迎えるときも世界が彼らの苦境に冷淡であると信じさせたままにしておいてよいのであろうか。

コフィ・A. アナン
国連事務総長

はじめに

ほとんどの人々は、チェルノブイリで起きた核事故を歴史上の出来事になったひとつの事件と考えているだろうが、真実は、この事故が三か国の全人口に破壊的な影響を与え続けているということである。実際その事故から13年以上が過ぎたにもかかわらず、被災した人々の健康への最悪の影響は、実はまだこれから訪れるかもしれないのである。メルトダウン(原子炉の熔融)と放射能の雲の物語、話題として格好な物語がニュースの見出しから消えて久しいが、実際の間人、経済、社会、健康および環境を襲った惨事は始まったばかりなのである。被害のもっとも大きかった国々の政府はかなりの額の国家予算を、この事故によって生じた人々の苦痛を軽減するために費やしているが、現在の経済状況の中では充分と言うにはほど遠い。救援プロジェクトを始動させるための仕事が精力的になされてきたが、残念なことに、国際社会が直面している緊急課題の羅列のなかで、チェルノブイリはほとんど忘れられ、外部からの財源として必要な額のほんの一部が活動に供されただけである。この冊子は、チェルノブイリにスポットライトを取り戻し、人々にこの悲劇的事故の被害者がどれほど人々の助けを必要としているかを思い出させることを目的としている。



第4号炉石棺の建設

何が起こったのか

ウクライナ北部にあるチェルノブイリ原子力発電所において安全実験中の 1986 年 4 月 26 日午前 2 時 36 分から 40 秒後、オペレーターはひとつのボタンを押した。設計上の欠陥により、原子炉はメルトダウンに至り放射能雲を放出し、それは北半球一帯に拡がった。その後の数週間、そのオペレーターは同僚とともに病院で死の淵にあり、放射能で焼けた彼の皮膚は、完全に焦げたようになるまで、日々、その色を増していった。何が悪かったのかと、何度も何度も彼は自問した。どんな答に彼がたどり着いたとしても、その惨事の本当の規模を、その地域を数十年にわたって荒廃し続けるであろうその結末を、彼は理解することができなかったであろう。155,000 平方キロメートルの地域、300 万人以上の子どもたちを含む 710 万人の人々の家が危険なレベルの放射能で汚染された。この事故で放出された放射能は、広島と長崎に落とされた 2 つの原子爆弾を合わせたものの、少なくとも 100 倍は多かった、

第 4 号炉は、原子炉建屋の屋根を吹き飛ばすほどの爆発で完全に破壊された。爆発そのものにより、3 人が亡くなった。一人の遺体は今も原子炉内に残っている。あまりにも放射能が高すぎて運び出すことができなかったのである。現場に駆けつけた最初の緊急作業員たちのうち 134 名は急性放射線症と診断された。彼らのうち 28 名は、それから 3 ヶ月以内に亡くなった。

60 万人以上の、「リクビデーター」と呼ばれる緊急作業員が、救助や救援活動、放射性瓦礫の除去、破壊された原子炉を覆う「石棺」という名のシェルター建設に参加した。彼らは現在ベラルーシ、ロシア連邦、ウクライナに住んでおり、放射線被曝の影響について定期的に観察を受けねばならない。

もっとも大きな被害を受けた国々の全般的状況

ベラルーシ

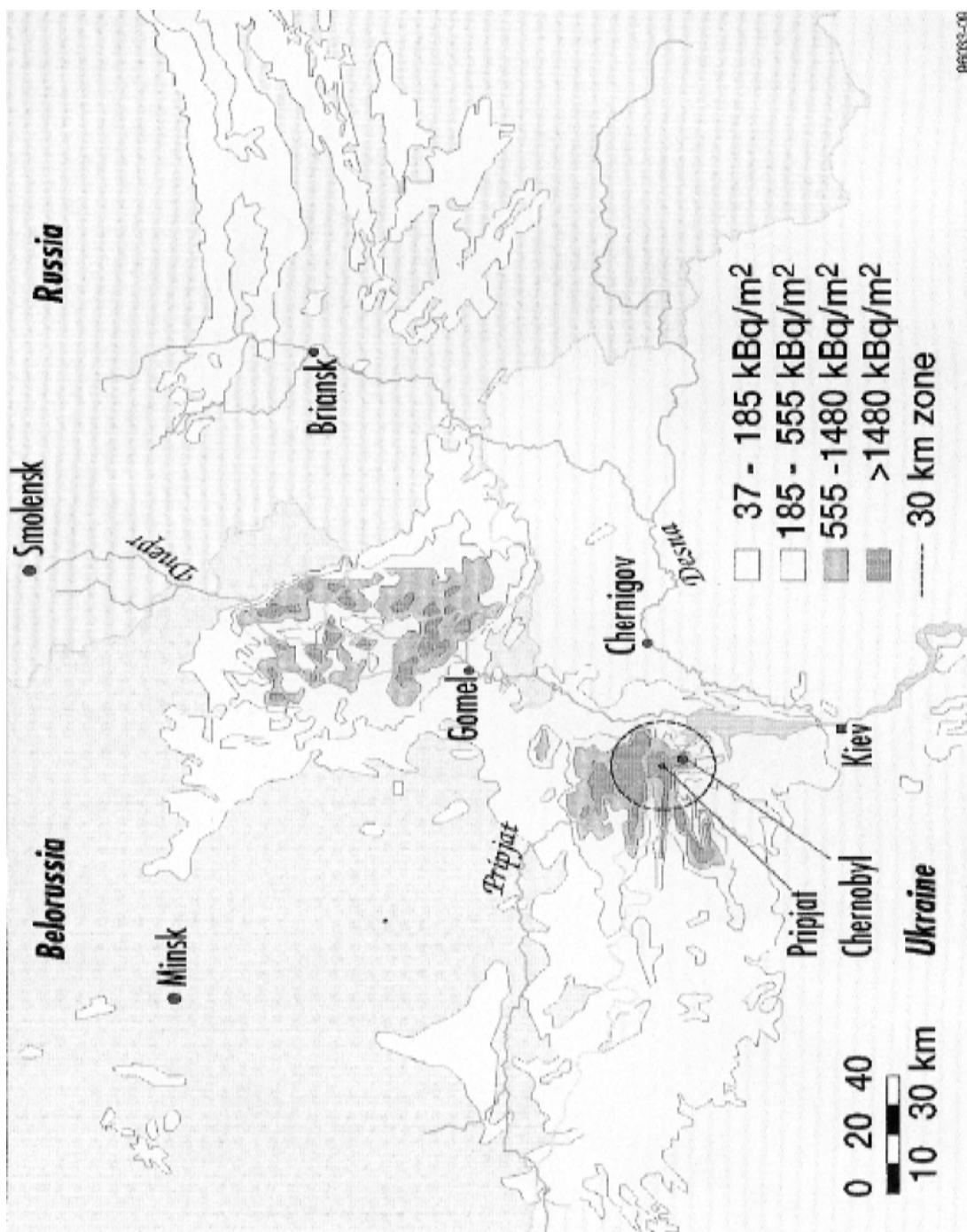
放射性物質の約 70%がベラルーシに降下し、被害を受けた国々の中でも汚染が最悪となった。森の 20%は依然として汚染されたままの状態、6000 平方キロメートルの農地での耕作は法律によって禁止されたままである。政府の全支出の 9%はチェルノブイリの災害によって生じた直接の結果を緩和することに向けられ、109,000 人の人々が移住させられた。

ウクライナ

ウクライナでは、150 万人の子どもを含む 350 万人が事故の直接的影響を受けた。50 万人の子どもたちが今も依然として汚染地域に住んでいる。チェルノブイリ事故の結果として現在 73,000 人近いウクライナ人が労働能力喪失者(障害者)であり、91,200 人が事故の起こった原子炉を中心にして半径 30 キロメートルの避難ゾーンから移住せざるを得なかった。国土の 5 万平方キロメートルが汚染されたままである。経済危機の結果、ウクライナ政府は、本来はチェルノブイリ救援のために計画された資金のほんの一部を何とか利用できている状態である。

ロシア連邦

ロシア連邦では270万人の家があった地域、57,000平方キロメートルが汚染された。合計20万人のロシア人が緊急の汚染除去作業に従事し、その結果このうちの46,000人が現在労働能力喪失者である。5万人はもっとも危険な場所から移住したものの、30万人の子どもを含むおよそ180万人が今も汚染地域に住んでいる。“リクビライター(汚染除去業者)”を除いて、57万人が被害者として登録されている。ウクライナ同様、政府は必要な救援用資金の一部しか用意できていない。



1平方メートルあたりのキロベクレル数で示したベラルーシ、ロシア、ウクライナのセシウム137汚染図。提供：DARA

避難と移住

今までのところ、三ヶ国で 25 万人がもっともひどく汚染された地域から避難した。数百万人は今も汚染度の高い地域に住んでいる。この規模の移住は莫大な経済的損失を持続させる大規模な作戦である。すぐ住めるようなまったく新しい町をつくらなければならなかった。この(環境の)激変は人々の生活に多大な緊張を与えた。新しい町の建設は数棟の高層ビルを建てるほど簡単なことではない。つまり、すべての必要なサービス、公共施設、仕事、病院等を完全に備えたコミュニティ全体をつくり直さなければならない。機能しているコミュニティは有機的で複雑である。したがって新しいコミュニティがまったくの無からつくられる時、必ずしもうまくいかなかったとしても驚くことではない。新しい居住地の地域経済には政府からの補助金が必要であり、失業率も高くなっている。

ウクライナでは、チェルノブイリ原発労働者 55,000 人が住んでいた町プリピャチからの避難者のために、スラヴチチという新しい町を建設しなければならなかった。現在、スラヴチチの 6000 人の住民はまだチェルノブイリ原発で働いており、原発が最終的に閉鎖されるときにこの町がそれにどう対処するのかは明らかにされていない。

健康への影響

事故から 14 年がたっているが、最悪の事態はまだこれからやってくるかもしれない。今までのところ健康に対して認識できる最大の脅威は甲状腺がんである。事故のときに放射性ヨウ素の大量放出があったが、これは甲状腺に影響を及ぼし他の甲状腺疾患同様甲状腺がんを引き起こすことがある。放射性ヨウ素の半減期は短く、すばやく減衰し土地への汚染は終息する。しかし、甲状腺がんが発生するまでにはかなりの時間がかかり、この影響をもっとも強く受けているのは事故のときはまだ幼い子どもだったか、あるいは事故のときにはまだ生まれていなかった赤ん坊たちである。

甲状腺がんの患者数は事故の約 5 年後に増え始め、現在も増え続けている。地域によっては、その発生率は事故前の 100 倍以上にもなっている。科学者たちは最初、発生率は 2006 年までピークに向かって増え続け、その数は事実上 6,600 人に達するだろうと予測していたが、最近この発生数は予想を越えはじめている。すでに 11,000 件以上の甲状腺がんが報告されている。

WHO の国際甲状腺プロジェクトは、比較的低レベルの被曝でさえも、甲状腺機能低下症、または甲状腺機能不全症候群を発症させ得ることを示唆する証拠を見出している。甲状腺機能低下によって次のような症状が起こることがある。新生児では深刻な精神および成長の遅滞、子どもでは成長不全、成人では無気力、寒さに耐えられない、体重増加、手足の腫れ、月経血の増加、不妊および心臓機能低下である。

肺、心臓および腎臓の異常も、チェルノブイリから放出された放射線に由来することを示唆する証拠が明るみに出てきている。

この災害の健康への影響は放射線被曝の直接的影響にとどまるものではない。農地の汚染は、実際に農産物の生産を皆無にしてしまい、このことが人々の栄養に深刻な影響を与えてきている。EMERCOM (非常事態省) によれば、ベラルーシの人口の 80% はビタミン不足から甲状腺がんまでを含む、何らかの健康問題を抱えている。



被災地域からの子どもたち。キエフ近郊のサナトリウム Mayak

長期的健康影響

放射線に被曝するというのは比較的新しい現象であるため、その長期的な健康への影響についてはほとんどわかっていないし、完全な結果はかなりの期間を経なければ明らかにならないかもしれない。

統計では、今までのところ甲状腺がんがチェルノブイリと直接結びついている主要ながんの形態とされているが、他の大部分のがんは事故後少なくとも10年間は現れはじめないし、具体的に現われるには15-20年を要するかもしれない。他のタイプのがんが具体化してくるときには、それらが放射線被曝によって生じたものと証明することはむずかしいだろう。なぜなら医学は放射線被曝によって生じるがんと他の原因によって生じるがんを区別することは、まだできないからである。

最近の研究によって、事故のときに子どもだった人の中には、自分自身の身体の組織を認識できずにそれをあたかも体外からの病原菌の侵入とみなして攻撃してしまうという、変異抗体をつくりだしてしまう場合があることがわかった。この場合には、その抗体は甲状腺を攻撃しているらしく、これが甲状腺機能低下症を導いている可能性がある。二つの村の若者が検査された。このうち一つの村は汚染がきわめて強く、もう一つは汚染をほとんど免れた。甲状腺機能における有意な差はみられなかったが、汚染地域の若者たちは非汚染地域の若者たちより、抗甲状腺抗体を5倍もつくりやすくなっている。

チェルノブイリの環境および健康への影響を調べるさまざまな研究プロジェクトが得ている知見については論争になっているものもあるが、医学的調査を継続することの重要性だけはだれも疑っていないという明白な事実がある。この調査が被災地に住んでいる人々にとってきわめて重大である理由はいくつかある。第一に、放射線被曝の健康に与える影響をよりよく理解することは正確な診断と適切な処置に不可欠であるということ。第二に、おそらく同じくらい重要であるのは、健康への影響がよく理解されてくれば、汚染地域に住んでいるということで健康状態について心理的影響を強く受けている被災地の住民に対し、説得力の

ある新たな自信を与えることがより容易になることである。詳細にわたる医学的調査があればよいという別の理由は、悲しいことだが将来、核の事故が起こった場合の犠牲者にとって重要になるであろうということである。このほかに、恐ろしい考えのように聞こえるかもしれないし、医学的調査に独特の立場でもあるのだが、あらゆる種類の予期せぬ産物を生み出すこともある。



甲状腺の医学スクリーニング。ウクライナ Vsilyanka
提供：IFRC

心理・社会的影響

放射能汚染は目に見えないオーラである。チェルノブイリのまわりの草原は野生動物のすみかとなっている。イノシシ、バイソン、狼、キツネ、そして多種類の希少種の鳥たちが野草の花の間を歩きまわり飛びまわっている。老婦人は森でベリーやキノコを摘み、道端で売っている。川には、10 フィート以上の長さになるまで釣り糸にかからずに育った魚たちが住んでいる。一目見た限りではエデンの園のようであるが、放射線は目に見えないだけでなく、それ自身を自然の中に覆い隠してしまう。チェルノブイリの周辺では、自然が汚染されたことによって人は自然に手をつけようとしない、つまり自然を保護していることになる。しかし何かひどく間違っていると感じるだろう。放射能は不吉なオーラをもっていて、物理的にも、感覚的にも捉えられるが、しかしどちらも同じように真実である。物理的に捉えれば、放射線を照射された粒子が減衰という過程を通してエネルギーを放出して生体の組織を傷つける現象である。感覚的に捉えれば、目には見えない危険に取り囲まれているという感覚で、害があることは分かっているがよく理解しているわけではない感覚である。このような感情を 700 万人以上の人々がもち、そしてこのような感情は放射線被曝の物理的影響と同じくらい有害である。

被災者に対する事故の心理社会的影響に属するもっとも重要なファクターのひとつは、公共的な情報の質である。ソ連邦はこれらの人々に当局への深い不信の念を与えたままである。チェルノブイリの現地では、事故の深刻さについての情報は数週間もおさえられ、その間子どもたちは戸外で遊び、自分たち自身を放射能に曝していた。原子炉から 1 マイル (1600 メ

ートル) くらいしか離れていないプリピャチの町では、住民は事故後36時間も経ってからそこは危険だと聞かされた。ある教師は、放射能漏れを起こしている原子炉で大混乱(カオス)を制御するために闘っている消防士たちを遠くから見るために、自分のクラスの小さな子どもたちを橋の上に連れていった。これらの子どもたちのすべてに甲状腺がん腫ができた。

驚くことではないが、その地域の人々は公共の情報、特に彼ら自身の安全についての情報をほとんど信じていない。人々は食料品についている放射線安全ラベルを信じていないし、自家菜園の野菜も信じていないし、当局を信じていない。また、放射線に関連した健康問題のリスクがないような、非常に汚染の少ない地域の人々でさえ、自分達は危険にさらされていると信じており、恐怖の中に暮らしている。あらゆる病気や異常がチェルノブイリのせいにされ、子どもをもつことを恐れている人が少なくない。チェルノブイリ地域から移住した女性たちは、自分の以前の住所を秘密にしていることが多い。男性が、汚染地域に住んでいた女性との結婚をのぞまないのではないかという恐れからである。放射線被曝の長期的影響に関する知識が限られていて、公共的情報にたいする一般的不信が強いうえに、おそろしい病気と遺伝的突然変異という避け難い噂がひろがり、何百万人もの人々の心と精神に心理的トラウマと長引くパニックを起こしたままである。



心理的リハビリテーションのセッション

経済的影響

緊急の救援と移転にかかる明らかに莫大な費用とは別に、事故はその地域の富を創り出す能力に関わる膨大な損失をもたらしている。かつてソ連邦の穀倉地帯であった被災地、とくにウクライナには、ソ連邦の中でもっとも肥沃な土地であったところも含まれている。ヒトラーがこの地に侵入したとき、彼はそこを“世界でもっともすばらしい土壌”と呼んだ。かつてソ連邦中の人々に食糧を供給したこの地域は、今ではあらゆるものを輸入する羽目に陥っている。チェルノブイリ事故がなければこの地域は経済的奇跡を起こせたとまでは誰も主張しないが、この災害が経済に手ひどい打撃を与えたことは否定できない。今日、その土

地で育った安全な食物でさえも、事実上は販売が不可能である。なぜなら誰もそれらが安全だとは信じないからである。被災地には、現在汚染されている広大な森も含まれる。材木は、かつてこの地では経済的価値のあるものであったが、しかしこれもまた今では販売不可能である。このような困難な状況に加えて、大規模に増え続ける貿易赤字をかかえた政府は、広大な地域の汚染除去と移住のための資金を減らさざるを得ない状況にある。

環境への影響

合計 155,000 平方キロメートルの地域が今も危険な放射性同位元素 Cs（セシウム）137 と Sr（ストロンチウム）90 によって汚染されており、これらは放射能半減期が長いためほぼ次の世紀の間中、環境を脅かしつづけるだろう。被災地は広大な森と優良な農耕地からなっている。ウクライナ単独でも 100 万ヘクタール以上の森が汚染されている。森と農地は共に人々の生計の糧であった。それらは現在、事実上不毛である。栽培された作物同様、野生の食糧源も汚染されている。ベリー、キノコ、魚、そして猟鳥すべてが生命への脅威である。放射性核種がゆっくりと土壌に浸透するにつれ、それらは地下水面へと流れ込み、川や湖を有毒化していく。放射能汚染の脅威は、数百万の人々の飲料水を供給しているウクライナのドニエプル川に姿を現してくる。



ベラルーシ、モギリョフ近くの標識：ベリーとキノコ類は放射性核種の検査が必要。
提供：IFRC

将来的な放射能汚染の危険性の持続

汚染除去作業がうまく行なわれた場所でさえ、あるいは人々が申し分なく移住できたところでさえも、まださまざまな形で再汚染があるかもしれず、物語は終わったわけではない。

洪水

もしもチェルノブイリ原発の建っている土地が洪水に見舞われれば、土壌表面に安定していた放射性核種は、洗い流されて数百万人の主要な水源であるプリピャチ川とドニエプル貯水池に流入するかもしれない。

汚染廃棄物の投棄

汚染除去作業が行なわれたところはどこでも、汚染された廃棄物を埋めるための穴がある。しかし、それらは必ずしも必要なだけの深さがあるわけではなく、安全対策が施されているわけでもない。今後も注意深く監視しなければならない。放射性粒子は地下水に入りこみ、それが川や水源を汚染するという現実的な危険性がある。

汚染された森と森林火災

危険なレベルの放射能汚染が広大な範囲の森林地帯で測定されてきた。心配しなければならない理由のひとつは火災のリスクであり、いったん火災になると放射性物質を大気中に運ぶ煙雲を送りだし、またも私たちは風に運命をまかせる状態におかれてしまう。



私たちは将来の不安がなくなることを望んでいる

同様の事故

旧ソ連邦にある他の原発の安全性について現実的な心配がある。ソ連邦以外ではチェルノブイリ型（RBMK）の原子炉は建設されていない。これは西側社会では許可を得ることができなかったし、現在もできない特殊な設計となっている。現在旧ソ連邦では“石棺”と一枚の壁を共有しているチェルノブイリ第 3 号炉を含めて、14 の RBMK が運転中である。ウクライナの経済は深刻なエネルギー不足の状態にあることで有名であり、チェルノブイリはこの国の電力のかなりの部分を今も供給している。

何故我々は助けなければならないのか

チェルノブイリの核災害は、巨大なスケールの被災と苦難を引き起こした。しかし人々はじめてその事実を見た時（死者の数がそれほど多くないこと、避けられない遺伝的変異の証拠がないこと）、最初の反応はしばしば、結局それははじめに思ったほどひどいものではなかったという思いである。この産業事故の結果の規模と複雑さに十分な関心を寄せ続けているメディアは、ほとんど無いといってよい。大きな醜い傷痕が地球上に広がっている。住民への心理的・社会的インパクトと経済に与えた犠牲ははかりしれない。これらの地域は、進歩的で楽観主義的な社会として、ソ連邦の残骸から抜け出す十分な見込みがあったかもしれないのに、チェルノブイリ事故はその見込みを破壊してしまった。これらの地域の住民達は今も自分達の人生を立て直すために闘っている。

これらの人々を助けるための最大の理由は、助けやすいことである。彼ら自身がまず自分を助ける人々である。彼らの教育レベルは世界でも最高クラスであり、十分な資格を持った人々がたくさんおり、その基盤は損なわれていない。以下に述べる救援プロジェクトは、チェルノブイリに関する国連機関の間のタスクフォースによって細心につくりあげられたものであり、その利益は即座に目に見え、計ることのできるものである。どのプロジェクトでも、プロセスのすべての段階で、資金のすべては国際機関の直接的管理のもとに置かれて、よい状態を維持している。

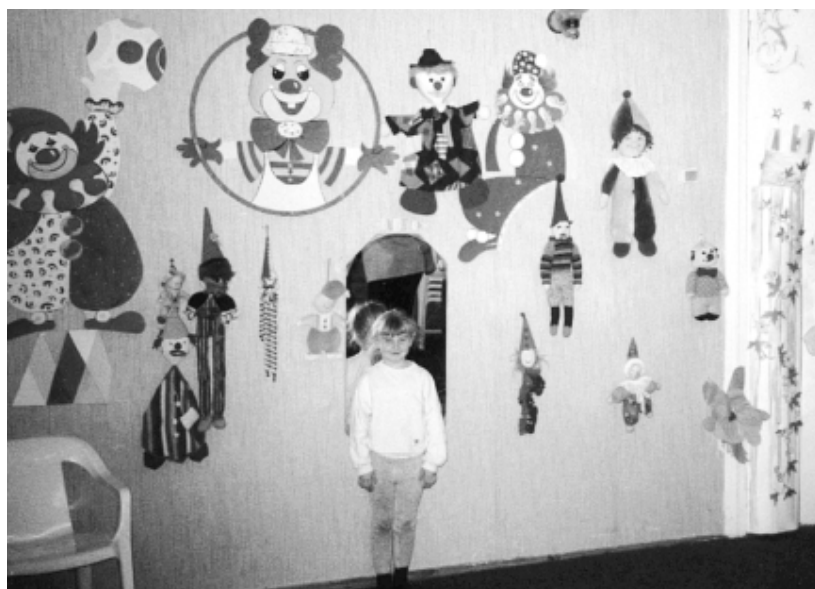
国際社会はこの地域の救援のためにすでに多くのことを行ってきた。そして支援は、これまでに達成できた仕事が無駄にならないように継続することが肝心なのである。支援が得られれば、世界のこの部分は、健康と繁栄への道に復帰できる見込みが充分にある。国連が設立し、国連人道問題調整事務所（OCHA）が認可したチェルノブイリ・トラストファンドは底の抜けた穴ではない、つまり際限なく資金を投入しても結果が得られないケースではないので、十分に引き合う投資である。

経済的リハビリテーション

1986年4月25日、つまり事故の前日、まだ何事も起こっていなかったときに、その後のソ連邦の崩壊を予測できたとすれば、経済的将来性という点で、もっとも見込みがあると見えた地域はベラルーシ、ウクライナ、ロシア西域であった。現在これらの国々はあらゆる食べ物を輸入しなければならない。直接的援助としては二つの方法がある。第一は、健康と安全のための緊急の対策を実行するために必要な資金、組織的および構造的な援助と専門家を提供することによって、関係各政府の財政的負担を減らすことである。第二は、惨事の経済的打撃を最小化できるようにそれら政府の経済再建を助けることである。救援組織がこの問題に挑む場合の一つの方法は、たとえばバイオ燃料のような工業用作物を生産するなど、汚染された農業用地の代替的使用法を探ることである。これらは消費者の信頼にあまり依存せず、そして自分自身が汚染されることなく、汚染された土地で生産することができる。他の提案された救済プロジェクトのすべてが被災者の士気を高め、この士気の向上は成長につながるだろう。

心理社会的リハビリテーションセンター

心理社会的問題は肉体的な健康障害より治療がずっと難しい。しかし、これを助けるため、国連による地域ベースのリハビリテーションセンター10ヶ所が現在運営中である。これらのリハビリテーションセンターは、放射線被曝に関連した健康リスクを最小にすることに關する基本的情報を提供する。人々はどうしてもっとも簡単で効果的な予防方法をとれるかを知らない場合が多いので、情報の提供は非常に重要である。この地域の人々は自分たちの政府から出される情報よりも国際機関から出される情報の方により大きな信頼を置いている。センターは、はっきりと国連の紋章をつけており、公共情報における信頼性の確立に大変有効である。センターが提供している他のサービスは、スポーツ施設、医学的ヘルスケアと幼稚園である。センターは現在コミュニティの中で中心的な役割を果たしており、旧ソ連邦のすべての公共施設が閉鎖されたためにできたギャップを埋めるために役立っている。しかし、地元の行政当局はこのセンターを支援しつづけることができず、多くの職員は数ヶ月間給与が支払われていない。



Borodyanka にある子ども用の心理リハビリテーションセンター

リクビライター（事故処理作業員）

合計で 60 万人以上の人々が汚染除去作業に参加した。彼らは全スペクトルにわたる放射線を相当量受けた。134 人は急性放射性症候群と診断された。28 人は事故後 3 か月以内に苦しみながら少しずつ弱って行って死亡した。数千人の人々は長期間つづく健康異常に苦しんでいる。

タービンと 3 号炉両方の屋根の上に吹き飛ばされた原子炉燃料の破片を取り除くために、ロボットが使用されたが、ロボットは莫大なレベルの放射線に耐えられずに壊れてしまった。ソ連邦当局は、最良の方策はその瓦礫を手で取り除くために若い徴集兵を集めることであると決断した。徴集兵たちは作業に伴う危険について十分には知らされていなかった。そして

大量の放射線を浴びた。彼らの中で生き残った者たちは、冗談交じりに自分たちのことを“バイオ・ロボット”と呼んでいる。まだ発病していないリクビデイターは、あたかも生物学的な時限爆弾を抱えながら自分たちの人生を生きている。彼らは英雄的努力をした結果、高い代償を支払ったのであり、間違いなく国際的援助を受けるに値する。

チェルノブイリの被害者への援助は、 将来起こる災害から人々を守ることにつながる

日本の東海村（ウラン）加工工場で起きた最近の事故は、深刻な核事故が高度に発達した国でも起こり得ることを私たちに示した。将来の核事故を防ぎ、また万一事故が起こったとき、それに有効に対処するためにチェルノブイリ事故から学ぶべきことは膨大にある。東海村が私たちに示したように、悲しいのは将来のある時点で別の人々がこの知識を必要とするだろうということである。私たちがチェルノブイリ人道プログラムを強力に支援することがベラルーシ、ロシア、ウクライナの被害を受けた人々だけでなく世界にとって重要である。

開発と人道援助

チェルノブイリで被災した人々のためにドナーコミュニティから資金を調達しようとする時に直面する問題の一つは、この災害が国際的な救援という通常のカテゴリーのいずれにもきちんと収まらないということであり、そのため開発や人道援助に配分された援助予算の間に落ちこぼれてしまうことである。チェルノブイリの原因は、人道援助と開発プロジェクトのための資金の両方に対する資格があるし、何としてもそれを必要としている。提案された救援プロジェクトの多くは、人道援助を提供し開発を開始するという2つのレベルで働くものであり、このことが、被災者を助けるために効果的かつ簡単な方法という理由である。チェルノブイリのための援助は、人道援助と開発への貢献のいずれかではなく、その両方として見なされるべきである。



ウクライナのコミュニティセンターを支援する UN-OCHA のミッション

国際的努力の調整

チェルノブイリの惨事で被災した人々は3つの異なる国に住んでおり、この災害の影響も政府と民間組織のかなり多くの異なる権限内で変化に富んでおり、援助の実行は異なる機関での大きなネットワークを必要とする。そのため、人道問題担当で国連人道問題調整事務所の代表である国連事務次長が国連内の国際的協力のコーディネイターを務め、彼のジュネーブオフィスがドナーの貢献に対するチャンネルのひとつとして働いているのである。基金の受領と管理という明確な目的のために、専用の「チェルノブイリ信託基金」が創設されている。この任務は、1990年-1999年の間に採択されたチェルノブイリへの国際協力に関する一連の国連総会の決議によってOCHAに割り当てられている。OCHAは、援助の配布、社会心理リハビリテーションコミュニティセンターおよびトレーニング計画を調整するために、モスクワ、ミンスク、キエフにチェルノブイリ・コアグループを立ち上げた。

また、OCHAはチェルノブイリに関する組織間のタスクフォース（特別委員会）およびチェルノブイリに関する国際協力の大員級レベルでの四者調整委員会の作業を招集および調整し、さらにその両方の機構の事務局的サポートを実施している。

チェルノブイリに関する組織間タスクフォースのメンバー	
国連プログラムと組織	
ECE	ヨーロッパ経済委員会
FAO	国連食糧農業機関
HABITAT	国連人間居住計画
IAEA	国際原子力機関
ILO	国際労働機関
UNEP	国連環境計画
UNESCO	国連教育科学文化機関
UNFPA	国連人口基金
UNICEF	国連児童基金
UNIDO	国連工業開発機関
UNDP	国連開発計画
UNSCEAR	国連原子放射線の影響に関する科学委員会
WB/IBRD	世界銀行
WHO	世界保健機関
WMO	世界気象機関
国際組織および機関	
EBRD	欧州復興開発銀行
EC	欧州委員会 (European Commission)
IFRC	国際赤十字及び赤新月
OECD	経済協力開発機構 (

現在進行中の救援プロジェクト

以下のプロジェクトは、チェルノブイリに関する組織間タスクフォースのメンバーによって現在実施されているものであり、ひとつのグループはさまざまな救援組織間の協働を促進し OCHA によって調整されている。

国連機関の活動	
世界保健機関 (WHO)	3つの WHO プロジェクトが現在実施中である。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 国際甲状腺プロジェクト ➤ 事故処理作業員プロジェクト (リクビデータープロジェクト) ➤ 線量再構築プロジェクト さらに WHO は、子どもたちの放射線関連疾患の研究と治療に関する 2 つの将来的プロジェクトの案を持っている。この必須の作業に対する資金の目処は立っていない。
国際原子力機関 (IAEA)	IAEA は現在、安全性、廃棄物、放射線、測定および放射性核種の環境への影響の分野で多くのチェルノブイリ関連のプロジェクトを実施中である。
国連食糧農業機関 (FAO)	FAO は、上記の IAEA プロジェクトのいくつかについて技術的援助を行っている。
国連教育科学文化機関 (UNESCO)	UNESCO は心理社会的リハビリテーションのための 10 のセンターを設立している。
国連児童基金 (UNICEF)	UNICEF は、放射線関連の疾患に対する人々の抵抗力を高める目的で、チェルノブイリの被災地の住民にヨウ化塩を供給するプロジェクトを実施している。
国連原子放射線の影響に関する科学委員会 (UNSCEAR)	UNSCEAR はチェルノブイリの地域における放射線の線量と影響に関する報告書を準備中である。
国連開発計画 (UNDP)	UNDP は現在、ロシア水門気象サービスが行っている地表と地下水系の放射能汚染を調査する研究プログラムをサポートしている。このプロジェクトは安全な水の供給を保証するために不可欠のものである。被災三カ国にある UNDP オフィスは、チェルノブイリ信託基金がサポートしている実施中のプロジェクトを監視するうえで OCHA と協力している。
国際労働機関 (ILO)	ILO は、移住によって出現している困難性の克服、とりわけ、プリピャチの町およびその他の汚染地域からの避難者が移住したスラヴチチの町での住民の雇用の創出に関与している。
国連人道問題調整事務所 (OCHA)	募金と活動の調整に加え OCHA はチェルノブイリプログラムと国連チェルノブイリファンドを通して以下のプログラムの実施を援助している。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ リクビデーターの健康管理 ➤ 心理社会的リハビリテーションのためのセンター ➤ ゴメリ州における経済的リハビリテーション ➤ チェルノブイリ防護堤防の実施可能性調査 (Chernobyl Protection Dike Feasibility Study)
その他の国際組織と機関の活動	
欧州連合 (EU)	

EU は、大規模な原子力防災プログラムを持っている。

欧州復興開発銀行 (EBRD)

当銀行は「石棺」の刷新を組織してきている。

国際赤十字及び赤新月 (IFRC)

IFRC は自身のチェルノブイリ人道援助およびリハビリテーションプログラムの運営により、惨事の被害者に長期にわたって関わり続けている。

どのくらいの資金が必要なのか、そして これまでにどのくらいの募金が寄せられているのか

1997 年、チェルノブイリ惨事への国際援助の組織間プログラムは総額 9000 万 US ドルを必要とする 60 のプロジェクトを画定した。この総額のうち、ドナーコミュニティから寄せられた合計額は 150 万 US ドルという貧弱なものであった。この貧弱な反応の結果、チェルノブイリ国際協力の国連コーディネーターは、もっとも急を要するプロジェクトの選抜リストを作成し、この優先的なプロジェクトのための資金について新しいアピールを開始することを決定した。1998 年 10 月、アセスメントのためにウクライナ、ベラルーシ、ロシア連邦へ派遣団が送られ、各国からそれぞれ 3 つのプロジェクトに優先枠が決められた。これらの優先プロジェクトは「チェルノブイリ国際協力のための国連アピール」として、1999 年の国連ドナー国常任委員会に提出された。

これら 9 つのプロジェクトへの資金の供与は何としても急を要するものである。

優先プロジェクト

ベラルーシ

ゴメリ州ブラーギン地区病院の近代化

[プロジェクトコード：Health/BEL 03/97 - 実施機関：WHO]

この病院は、もっとも被害の大きかった地域のひとつにあり、2 万人の人々のために働いている。至急刷新が必要であり、現在、衛生的な基準を満たしていない。必要な機器がないために、その任務を達成できていない。とりわけ X 線装置、可動式の超音波装置、麻酔用の機器、血中電解質分析装置、蘇生用装置、凝固測定計、血液分析器が至急必要である。

国内の関係当局が膨大なスタッフと刷新のための費用を負うが、さらに 200 万米ドルの国際的援助が至急必要である。このプロジェクトは 3 年行われ、WHO の協力を得て実施される。

ベラルーシの子ども用リハビリテーションセンターのネットワーク化

[プロジェクトコード：Socyo-Psych/BEL 08/97、附属書 1 - 実施機関：UNDP]

甲状腺がんや他の放射線に関連する病気を患っているベラルーシの多くの子どもたちは、いかなる種類の社会的サポートも受けていない。このプロジェクトは彼らに、教育やスポー

ツ器具を備えたりハビリテーションセンターと医学的・心理社会的リハビリテーション施設のネットワークを提供し、彼らの人生を生きる価値のあるものにしていくことを目的としている。

これまでのところ 3 つのリハビリテーションセンターが既に稼働しており、ほかに 2 つのセンターが建設中である。しかし財源不足のため、センターを運営するために必要な機器を装備できていない。

国内の関係当局は建設のために 216,140 米ドルと、運営のためのランニングコストを満たすために年あたり 150 万米ドルの出資を約束している。さらに、必要な機器と職員の訓練用の費用をカバーするために、60 万米ドルの外部からの寄付が至急必要である。

ゴメリ州の特定地域の除染と放射線環境のリハビリテーション

[プロジェクトコード：Env/BEL 09/97 - 実施機関：UNDP]

ゴメリ州の 70%以上が汚染された。外部被ばく線量を減らすために、幼稚園、学校、病院、その他の必要不可欠な施設の除染は、絶対的に優先させなければならない。実際、この作業は 6 年間行われてきたが、まださらに実施しなければならない。

特別な小型の装置と防護服、および作業員の訓練が至急必要である。国内の関係当局は作業員と装置のメンテナンス用資金は供給するが、さらに外部からの 40 万米ドルを非常に必要としている。

ロシア連邦

乳製品の生産ライン

[プロジェクトコード：Economy/RUS 08/97 - 実施機関：UNDP]

このプロジェクトはブリャンスク州の住民に、放射線被曝の影響に対する免疫力を高めるために必須のビタミンを供給することである。牛乳、ベビーフード、乳製品、マーマレード用に 4 つの生産ラインが計画されており、すべて放射線被曝に対する免疫力を高めるためのビタミンが付加される。これらの製品は、子ども用施設、学校、病院に供給される。これは放射線に関連する病気の発病をかなり減少させるだろう。

国内の関係当局はスタッフを用意し建物の刷新を行う。さらに、各生産ラインに 15 万米ドルずつ、合計 60 万米ドルが必要である。もし援助が惜しみなく行われれば、生産ラインは 1 年以内に完成し稼働できるだろう。

50 万人の子どもの超音波スクリーニング

[プロジェクトコード：Health/RUS 04/97 (一部) - 実施機関：WHO]

甲状腺がんの早期診断は有効な治療のために必須である。このプロジェクトは、ブリャンスク、カルーガ、ツーラ、オリョール州の汚染地域にいる 50 万人の子どものスクリーニングを行うものである。それは多くの命を救うだけでなく、子どもとその家族を安心させるだろう。本来のプロジェクトは成人のスクリーニングも計画していたが、子どもたちが優先的

である。またこのプロジェクトは、低めのレベルの放射線が人々に与える影響を判定するのにも重要である。ロシア連邦の被災地では甲状腺がんになる子どもの発病率は標準的な平均を数千倍も超している。最近まで甲状腺がんのスクリーニングは時代遅れの方法（甲状腺の触診）を基本にしてきたが、これは早期診断を阻んでいた。

国内の関係当局は国家予算から 500 万米ドルを準備している。さらに超音波装置、搬送、訓練のために 120 万米ドルが必要である。

チェルノブイリ被災住民とリクビデーターのための社会心理的リハビリテーションセンターのサポートおよびさらなる発展

[新提案：実施機関：UNDP]

この計画はチェルノブイリの惨事によって被災した人々の社会心理的リハビリテーションのためのコミュニティセンターのシステムをサポートし、さらに発展させるだろう。これは UNESCO チェルノブイリプログラムの傘下で、一部はロシア EMERCOM（非常事態省）の資金援助も受けて 1994 年と 1996 年の間に設立された。ロシアで既に立ち上がり移動している 4 つのセンターに加え、新しい国立のセンターがモスクワに創立され、事故処理作業者と被災地域からの人々に対して社会的・法的援助を提供する予定であり、かつ、既設の 4 つのセンターのスタッフのための訓練基地としても活動する予定である。

ロシアの国家予算から、約 20 万米ドルの支出が予定されているが、さらに既設のセンターのサポートのために 20 万米ドル、新しいモスクワのセンター設立のために 50 万米ドル、合計 70 万米ドルが余計に必要である。

ウクライナ

チェルノブイリ事故の健康影響に関する国際プログラム：第二期

[プロジェクトコード：Health/UKR 01/97 - 実施機関：WHO]

ウクライナの事故処理作業者と放射線被曝した人々のヘルスケアの調整と具体化の改善が喫緊の課題である。このプロジェクトの主目的は、ウクライナで登録されている事故処理作業者の診断、治療、リハビリテーションの提供を強化し、よりよく調整することである。第二には、このプロジェクトが体系的な研究の基盤となるであろうということである。

このプロジェクトはさまざまなレベルの放射線に被曝した事故処理作業者にみられる多様な身体的変化の臨床検査に、関連する他の医学的研究結果を組み合わせ、包括的なデータベースを構築しようとするものである。

実験的研究は新しい診断法を開発し、一方データベースは放射線被曝の健康に及ぼす影響の評価にとっては非常に貴重なツールになるであろう。

このプロジェクトは WHO によって実施される。国内の関連当局はスタッフと管理コストの費用、および結果公表のための費用もまかなう。このプロジェクトは 5 年計画で、年に 50 万米ドルの資金を必要とするので、合計では 250 万米ドルとなる。

森林リハビリテーション技術の開発

[新提案：実施機関：UNDP]

かつてウクライナ経済の重要な輸出分野であった林業は、放射能汚染で甚大な被害を受けてきた。チェルノブイリ事故の結果、ウクライナの森林の 350 万ヘクタールが放射性各種で汚染された。このプロジェクトは森の生態系を安定させ、この地域の林業にとっての放射線安全技術を開発することである。これには、セシウム 137 とストロンチウム 90 の放射性核種の移行パターンについての大事な研究も含んでいる。これは林業に従事する人々の被曝レベルを減少させ、山火事で再度放射能の煙雲が大気中に投げ出されるリスクを最小化させるのにも役立つであろう。

ウクライナの関連当局は 80 万米ドルを出資するとともに、ウクライナの科学者、森林火災予防チームを準備し、機器のメンテナンスにもあたる。訓練、技術と研究、パイロットプロジェクトの開発、そしてその結果の発表のために、さらに 130 万米ドルの国際的な寄付が必要である。

放射線に被曝した人の子どもに対する健康影響の研究

[プロジェクトコード：Health/UKR 02/97 - 実施機関：WHO]

これは将来の世代に対する放射線の影響を研究するという目的であるので、非常に重要なプロジェクトである—もっとも人を恐れさせると同時に。もっともよくわかっていないチェルノブイリ核惨事の影響のひとつである。このプロジェクトでは、急性放射線症を発症した者も含む、事故処理作業員の子どもたちの身体的、神経精神医学的発達を分析することになる。このデータから、異なる量の放射線に被曝した両親に生まれた子どもたちの異常のリスクを評価し、これらのリスクを最小化するためのリハビリ措置のシステムを開発することが可能になるだろう。

このプロジェクトは 3 年計画で、WHO と協同で行われる。EU によって開始された活動の結果も考慮に入れられる。訓練、フィールドワークおよび機器に必要な費用の見積もりは 210 万米ドルである。国内の関係当局は土地建物、入手できるならば装置、そしてスタッフを準備する。

高優先順位に必要な資金概略	
国	米ドルでの合計
ベラルーシ	300 万
ロシア連邦	250 万
ウクライナ	401 万
合 計	951 万

注意：プロジェクトコードは、「チェルノブイリ惨事によって被災した地域の国際的援助に関する組織間プログラム」を参照した。

おわりに

プラント直近エリアの放射線状況は、石棺の建設と現在ではその補強という、チェルノブイリの安全性向上への国際的な関与のおかげでかなり改善している。しかし、事故の人間に対する影響は執拗に厳しい状態が続いている。EBRD は、2007 年までにチェルノブイリのプラントサイトの改修を完了する予定である。このために、既に計 4 億ドルが供されている。この量のわずか 3%がドナー国から拠出されれば、事故に起因する人間の苦しみを緩和するのに大きな影響を与えるだろう。上記の優先順位の高いプロジェクトをサポートしてくれるよう、ドナー国、多国間機関、民間財団、NGO に再び呼びかける。チェルノブイリに関する国際協力の国連コーディネイターも、これに対する国際的反応の実効性を最適化し、また世界的に原発事故予防に対してどの程度追加の革新的措置をとることができるのか検討している。UNCTF（国連チェルノブイリ信託基金）へのすべての貢献は書面で確認され、ドナーには、これらの資金の使用に関わる財政報告と状況報告が提供される。これらのプロジェクトは、人々が耐えている苦しみを軽減するために必要な最低限の努力を表している。CTF（チェルノブイリ信託基金）への拠出は、次の銀行口座で可能である：

銀行名等（略）

詳細のお問い合わせは

国連人道問題調整事務所（UNOCHA）
災害対策部(DRB) - Palais des Nations
CH-1211 Geneva 10, Switzerland

Mr. Dusan Zupka チェルノブイリプログラム マネージャー
ヨーロッパ&NIS デスク 災害対策部
Tel: +41 22 917 16 45
Fax: +41 22 917 00 23
E-mail: Zupka@un.org

広報担当

Mr. Donato Kiniger-Passigli,
Tel: +41 22 917 2653

印刷： 国際連合、ジュネーヴ
GE.99-05644-2000 年 3 月 - 2,000
OCHA/99/20

（訳：「チェルノブイリ被害調査・救援」女性ネットワーク）

「チェルノブイリー今も続く惨事」原文：CHERNOBYL - A CONTINUING CATASTROPHE
https://ochanet.unocha.org/p/Documents/Chernobyl_2000.pdf